

八重地の棚田

八重地の棚田は、上勝の最西部にある山地の奥深くに位置します。これらの棚田は 468 枚の水田が網状構造を成しており、それぞれの水田は約 250 平方メートルの面積を持っています。この棚田は、歴史的景観の保全と高齢化する人口の課題を両立させてきた、変わることのない遺産を代表しています。

八重地は今も静かな隠れ家であり、歴史を色濃く残している場所です。細い道や路地を散策すると、石垣に囲われた民家、長楽寺、石碑や神社の数々など、200 年前と同じ風景が姿を現します。この小さな集落には山の神、水の神、農業の神が祭られた 22 もの神社があります。

これらの棚田は高丸山の斜面の低いところ、標高 550 メートルから 650 メートルの間の帯状の部分にあります。高丸山に降った雨は、流れ下って八重地の田畑に水を注ぎ、農業と人々の生活を支えています。このような利益が調和したアプローチが全国的に評価され、八重地の棚田は 2009 年に環境省によって重要里地里山に指定されました。里地里山とは、集落と、二次林、水田、および用水路との間の相互関係と、生物多様性の保全に重要な役割を果たしていることによって特徴付けられます。

1998 年、徳島県は、灌漑を改善するとともにこれらの小さな田畑の農業の機械化を可能にするため、より大きな長方形の水田を作る計画を採択しました。上勝では、しかし、一部の人々が棚田の景観が損なわれてしまうのではないかと懸念を表明し、このことが 2002 年 11 月に完了した先駆的なほ場整備事業のきっかけとなりました。用水路の導入、道路や田畑の間の小道の拡幅、鋭角の解消などを通して農作業の効率化を可能にしつつも、自然地形の輪郭にできるだけ沿った棚田が作られました。